

# 農作物技術情報 第6号の要約

平成24年 8月30日発行  
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p><b>生育状況</b>:刈り取り始めの目安となる日平均積算気温が 950℃に達する日は、平年より 2 日程度早まると予想される。収穫時期は日没が早まるので、余裕ある作業計画で適期に収穫すること。</p> <p>○コンバインや乾燥調製施設の点検、整備を早めに行うこと。</p> <p>○完全落水は出穂後 30～35 日後とすること。(品質低下の防止)</p> <p>○刈り取り適期の判定は、穂の黄化初率で 80～90%を目安に、適期に収穫すること。</p> <p>○籾の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分 15%以下に仕上げること。</p>
畑作物	<p><b>大豆</b>:平年より遅めの開花。茎疫病の被害や高温・乾燥による生育抑制の見られるほ場があり、生育量は全般に平年並みから平年をやや下回っている。マメシクイガの防除適期は8月下旬から9月上旬。薬剤が莢によく付くように散布すること。</p> <p><b>小麦</b>:播種適期を逃さない作業計画を。排水対策は必ず実施すること。播種は土壌条件が整ってから行い、出芽・初期生育を確保すること。</p>
野菜	<p><b>生育状況</b>:施設果菜類、露地果菜類とも高温乾燥の影響等による草勢の低下や障害果の発生がみられる。露地葉菜類はねぎ、レタスで高温乾燥による生育停滞や品質低下がみられる。雨よけほうれんそうでも生育の停滞やしおれ、枯死がみられる。</p> <p><b>雨よけトマト、雨よけピーマン</b>:今後も気象経過に応じたハウスの適切な温湿度管理で草勢維持をはかるとともに、障害果の発生防止対策を行う。灰色かび病等の病害の予防やタバコガ類等の防除を徹底する。</p> <p><b>露地きゅうり</b>:古葉や病葉の摘葉、不良果の摘果等による草勢回復及び病害虫防除は、褐斑病、炭そ病、べと病の重点防除を行う。</p> <p><b>雨よけほうれんそう</b>:秋まき用品種への切替を適切に。気温が下がっても日中は換気をしてべと病を予防する。土壌病害が多発した圃場では作付終了後の土壌消毒も可能。</p> <p><b>キャベツ、レタス等</b>:適期収穫に努めるとともに、圃場排水の確認を行う。</p>
花き	<p><b>りんどう</b>:高温、乾燥により草丈がやや短い傾向。うね間かん水を励行し、草丈の伸長を図るほか、開花遅延を防止する。ハダニ類、アザミウマ類、リンドウホソハマキなど害虫の防除を徹底する。</p> <p><b>小ぎく</b>:乾燥圃場では適宜かん水を。また、オオタバコガ、ハダニ類、アブラムシ類など害虫の防除を徹底する。収穫前に翌年用の母株を選抜すること。</p>
果樹	<p><b>生育状況</b>:果実生育は平年並みまで回復、早生品種の果実品質は、硬度、でんぷん指数は高め、糖度は平年並みとなっている。</p> <p><b>りんご</b>:早生種の適期収穫とすぐりもぎの徹底を。中晩生種の見直し摘果を実施すること。</p> <p><b>ぶどう</b>:品種ごとの適期収穫を励行すること。</p>
畜産	<p><b>牧草</b>:除染対策の草地更新について、播種適期を考慮し作業を進める。耕起・砕土作業を丁寧に行う。</p> <p><b>乳用牛</b>:暑熱の緩和対策を継続し、体力の回復を図る。</p> <p><b>飼料用トウモロコシ</b>:収穫時の基本技術(黄熟期収穫、原料の細切、十分な踏圧、早期密封)の励行。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

- 農作業安全: 事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。
- 農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

次号は平成24年9月27日発行の予定です

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 水稻

発行日 平成24年 8月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 刈り取り始めの目安となる日（日平均積算気温が950℃に到達する日）は平年より2日程度早まる予想です。収穫時期は日没が早まりますので、余裕のある作業計画で、適期に収穫しましょう。
- ◆ コンバインや乾燥調製施設の点検、整備は早めに行いましょう。
- ◆ 完全落水は出穂後30～35日後としましょう。（品質低下の防止）
- ◆ 刈取適期の判定は黄化率で80～90%を目安に、適期に収穫しましょう。
- ◆ 籾の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分15%以下に仕上げましょう。

## 1 生育状況

県全体の出穂期は8月7日と平年並でした（表1）。出穂後も好天で経過しており、登熟は順調に進んでいると想定されます。

表1 水稻の地帯別出穂時期 各農業改良普及センター調べ

農業地帯	出穂時期(月/日)								
	本年			平年			平年差(日)		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	8/5	8/8	8/12	8/3	8/7	8/11	2	1	1
北上川下流	8/3	8/7	8/11	8/4	8/7	8/11	-1	0	0
東 部	8/5	8/7	8/13	8/5	8/9	8/13	0	-2	0
北 部	8/7	8/9	8/12	8/4	8/7	8/12	3	2	0
県 全 体	8/4	8/7	8/11	8/4	8/7	8/11	0	0	0

注) 1 平年値は平成13年～23年（15年を除く）の10か年の平均値

2 始期、盛期、終期は各々地帯で概ね10%、50%、90%の水田が出穂期となった日

## 2 気象経過

8月も気温は平年より高く経過しています（図1）。東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台8月24日発表）では、前半は平年に比べ晴れの日が多く、後半は天気は数日の周期で変わる見込みです。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%と予想されています。

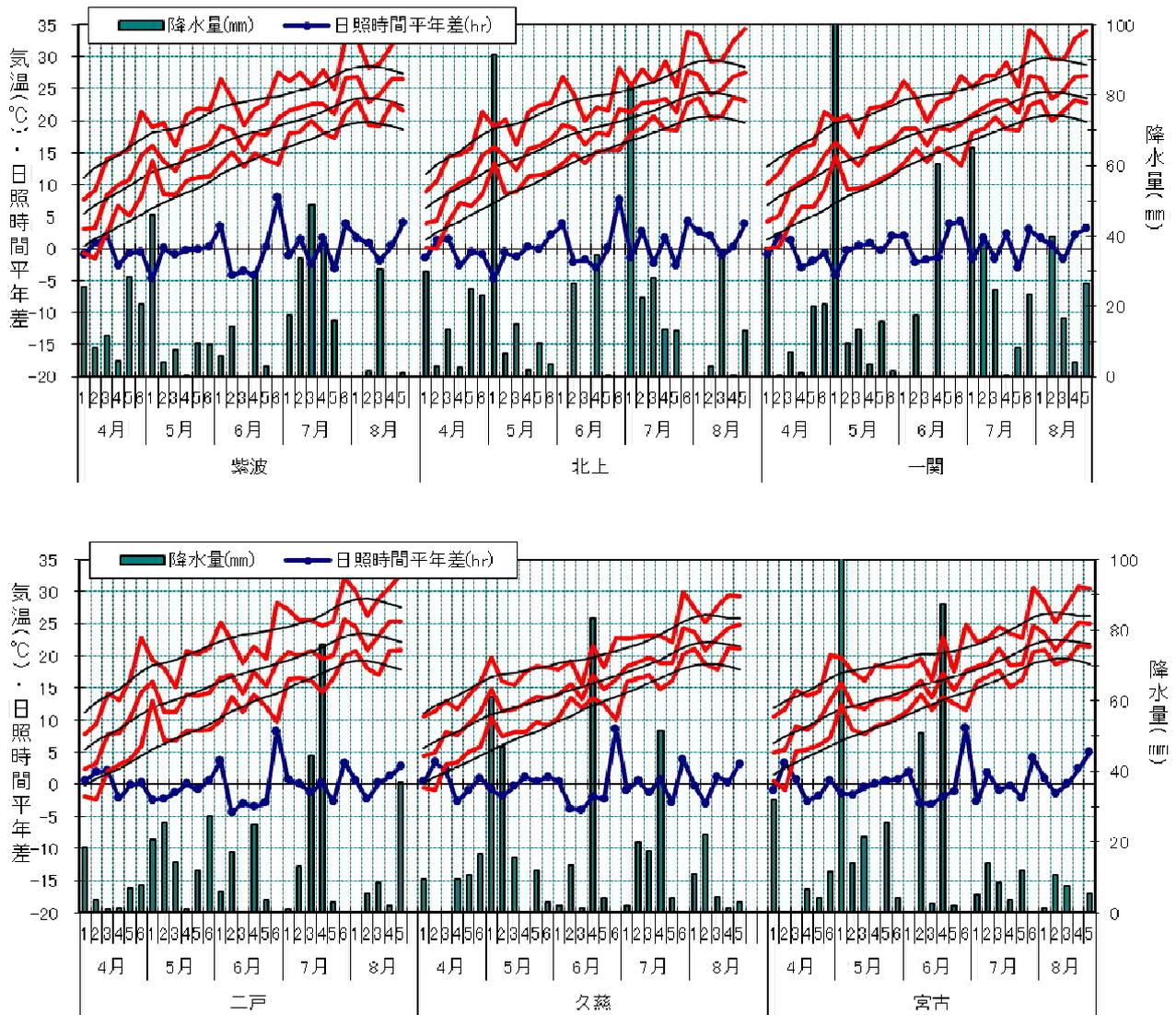


図1 半月別気象経過図（4月第1半月～8月第5半月）  
 （上段；紫波・北上・一関 下段；二戸・久慈・宮古）

### 3 登熟を低下させない水管理

登熟期の高温は品質低下の原因となるので、登熟を低下させない水管理を心掛けましょう。

登熟期間の水管理は食味、品質及び収量に大きく影響します。根の活力を維持するため間断かんがいをを行い、田面が湿っている程度の水分を保つような水管理を行ってください。

落水が早すぎると収量や品質の低下につながります。以下を目安に落水しましょう。

- ◆ 排水が悪く地下水位が高い水田・・・出穂30～35日頃
- ◆ 排水のよい水田・・・出穂35～40日頃

\*台風、大雨等で浸冠水の恐れがあるときは、水尻を開けて排水を促します。浸冠水した場合は、葉先を早く出すことが重要ですので、速やかな排水に努めます。

ただし、稲体が水分を失いやすい状態にあるため、田面を急激に干さないようにしてください。

### 4 適期刈り取りの励行

適期刈り取りは高品質生産のために重要です。黄化初割合80～90%に達したら刈り取りを行ってください。今年も新米の安全性を確認するための放射性物質調査を全県で実施します。カントリーエレ

ベーター、ライスセンターをご利用の方は施設の稼働時期を確認のうえ刈り取り計画をたてましょ  
う。

(1) 刈り取り適期の予測

刈り取り適期は出穂期からの日平均気温の積算による方法で予測します。品種ごとに刈り取り  
適期の目安となる積算気温が定められています(表2)。

本年の各地域での刈り取り始めの目安となる日(日平均積算気温が950℃に到達する日)は平  
年より2日程度早まると予測されます(表3、図2)。コンバイン、乾燥調整施設の清掃、点検整備  
は早めにすませ、刈り取りを行うための準備を進めましょう。

表2 主要品種の積算気温による刈り取り適期の目安

品種名	刈り取り適期の積算気温
ひとめぼれ	900~1,050℃
どんびしゃり	950~1,050℃
あきたこまち	950~1,100℃
かけはし	950~1,050℃
いわてっこ	950~1,050℃
ササニシキ	1000~1,150℃
ヒメノモチ	950~1,050℃
もち美人	950~1,050℃

表3 各地域の出穂期と日平均積算気温950℃到達日の予測

農 業 地 域	出穂期						刈り始めの目安 出穂期~日平均気温積算温度950℃到達日(月/ 日)						使用 アメダス ポイント
	本年			平年			出穂始期~		出穂盛期~		出穂終期~		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
花 巻	8/5	8/8	8/11	8/4	8/7	8/11	9/15	9/17	9/18	9/20	9/22	9/25	花巻
北 上	8/5	8/9	8/13	8/4	8/9	8/12	9/15	9/17	9/20	9/22	9/25	9/27	北上
遠 野	8/4	8/7	8/11	8/3	8/6	8/10	9/17	9/18	9/21	9/22	9/26	9/28	遠野
西 和 賀	8/7	8/9	8/13	8/4	8/8	8/12	9/22	9/23	9/25	9/26	10/1	10/2	湯田
盛 岡	8/7	8/10	8/14	8/4	8/7	8/11	9/21	9/23	9/25	9/27	10/1	10/3	雫石
紫 波	8/4	8/8	8/11	8/2	8/5	8/10	9/15	9/17	9/20	9/23	9/24	9/27	紫波
八 幡 平	8/4	8/7	8/12	8/1	8/6	8/10	9/18	9/20	9/22	9/24	9/29	10/2	岩手松尾
奥 州	8/2	8/6	8/11	8/3	8/6	8/11	9/11	9/13	9/16	9/18	9/23	9/25	江刺
一 関	8/3	8/6	8/9	8/3	8/6	8/9	9/12	9/13	9/16	9/17	9/19	9/21	一関
大 船 渡	8/4	8/5	8/13	8/4	8/9	8/13	9/15	9/16	9/16	9/18	9/26	9/28	大船渡
釜 石	8/4	8/6	8/13	8/4	8/7	8/11	9/15	9/17	9/17	9/19	9/27	9/28	釜石
宮 古	8/6	8/8	8/14	8/4	8/7	8/12	9/19	9/21	9/22	9/24	9/30	10/2	山田
岩 泉	8/6	8/9	8/13	8/3	8/8	8/12	9/20	9/22	9/23	9/26	9/29	10/2	岩泉
久 慈	8/10	8/13	8/15	8/4	8/8	8/12	9/25	9/27	9/29	10/1	10/2	10/4	久慈
二 戸	8/5	8/7	8/10	8/3	8/6	8/10	9/18	9/19	9/21	9/22	9/24	9/26	二戸
軽 米	8/7	8/11	8/14	8/4	8/6	8/11	9/22	9/24	9/28	9/30	10/2	10/5	軽米
北上川上流	8/5	8/8	8/12	8/2	8/6	8/11	9/18	9/20	9/22	9/24	9/28	9/30	
北上川下流	8/4	8/7	8/11	8/4	8/7	8/11	9/15	9/16	9/19	9/20	9/24	9/26	
東 部	8/5	8/7	8/13	8/4	8/8	8/12	9/17	9/19	9/19	9/21	9/28	9/30	
北 部	8/7	8/10	8/13	8/3	8/7	8/11	9/21	9/23	9/26	9/27	9/29	10/1	
県 全 体	8/5	8/8	8/12	8/3	8/7	8/11	9/17	9/19	9/21	9/23	9/26	9/29	

\* 各地域の代表アメダスの8月25日までの実測値、以降は平年値を使用して950℃到達日を予測

\* 出穂始期：10%出穂、出穂盛期：50%出穂、出穂終期：90%出穂した日

\* 平年は、H13~H23(H15除く)の10か年の平均値

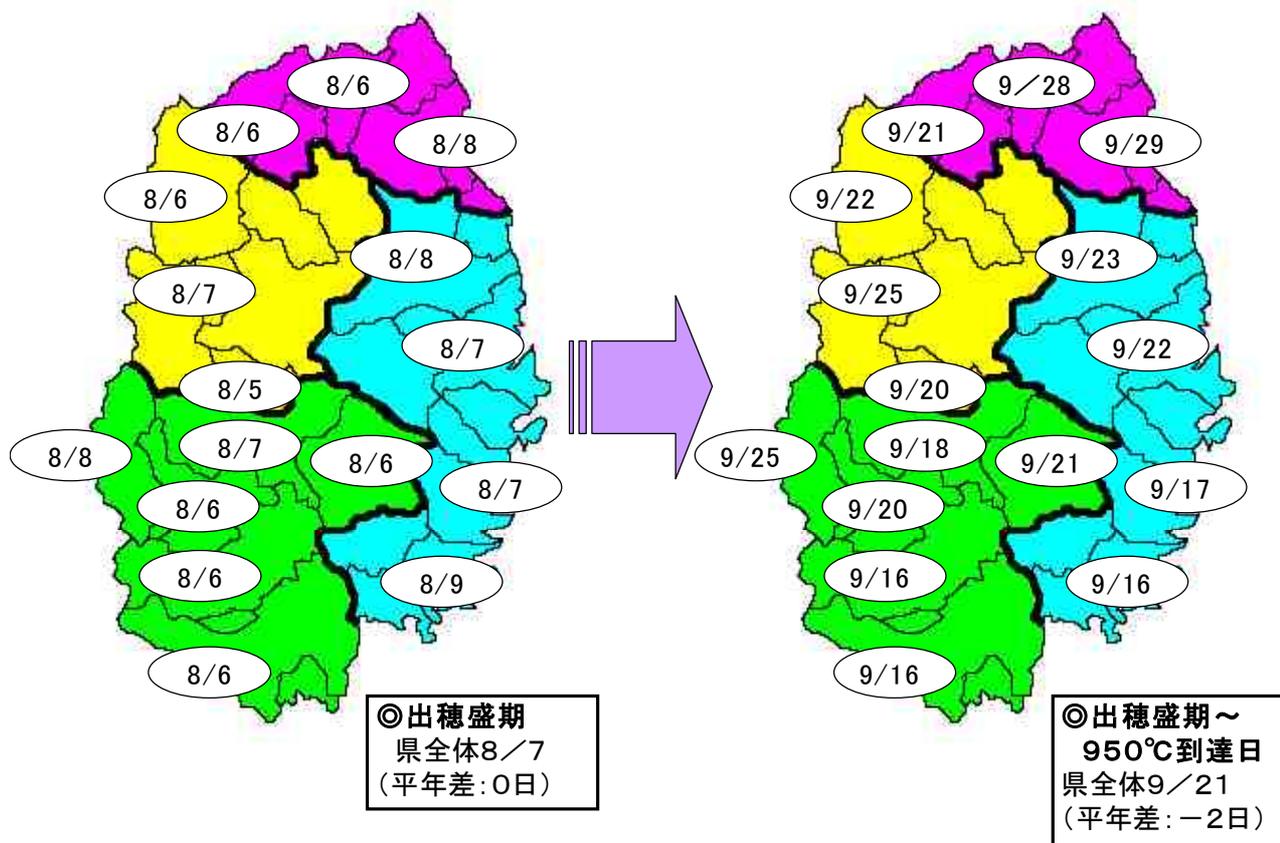


図2 各地域の出穂盛期から日平均積算気温950°C到達日の予測

※ 各地域の代表アメダス地点の日平均気温の積算（8/25までは実測値、以降は平年値を使用）

## (2) 刈り取り適期の判断

出穂からの登熟積算気温が950°Cに近づいたら、

- 籾の黄化割合を随時チェックし、
- 籾の黄化割合が80~90%となったら刈り取りを行ってください。

## (3) 刈り取り適期判断等の留意点

### ア 積算気温は目安にとどめる

積算気温による方法は栽培法や日照時間によりズレが生じる場合があります。最終的には、籾の黄化割合（80~90%が黄色で、穂基部の1割程度が緑色）を基本に刈り取りの判断をします。

### イ 籾水分の確認

コンバイン収穫では、作業開始前に水分計を用いて籾の水分状態が20~25%にあることを確認しましょう。

### ウ 水田内で出穂のばらつきが大きい場合

1枚のほ場内でも出穂のばらつきが見られます。水口などで登熟が大幅に遅れているような場所は、刈り分けして品質低下を避けてください。

### エ 倒伏した場合

台風や大雨等により倒伏した場合は刈り分けを行い、青未熟粒等の混入を避けてください。

### オ テスト籾すりによる品質チェック

着色粒は出穂後の日平均積算気温が750°C頃から出始めることから、随時テスト籾すりを行い、刈取適期を判定してください。

## 5 乾燥・調製の留意点 **仕上げ水分は15.0%以下を徹底！！**

### (1) 胴割れ粒の発生防止

毎時乾減率（1時間当りの水分低下）を0.8%以下とし、送風温度に十分に注意してください。急激な乾燥を避け、また、過乾燥にならないよう注意が必要です。

水分のバラつきが大きい場合は、水分測定をこまめに行い、籾水分18%の時に一旦乾燥機をとめて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して籾水分の均質化を図ります（二段乾燥）。

自然乾燥においては、掛け替えを行うなど乾燥に努め、乾燥期間は2週間以内としてください。

### (2) 籾すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

玄米水分15.0%以下の適正水分で籾すりをを行います。（肌ずれ米の防止）

ゴムロールのすき間は、籾の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。

脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

### (3) ライスグレーダー

出荷製品となる玄米は、L L（1.9mm）の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上となるよう努めましょう。

## 6 異品種混入の防止

現在、全国的に異品種の混入が問題となっており、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができます。異品種の混入が発生すると、品種名の表示ができなくなり、そのまま米を出荷すると、JAS法表示違反となるばかりか、産地全体のイメージを損ねることになります。

このような事態を回避し産地の信頼を確保するため、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

特に、コンバイン、運搬機、乾燥機や籾摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年に収穫した籾等が残留している可能性があります。収穫が始まるまでにこれらの機械や施設の点検・清掃を行い、異品種の混入を未然に防止してください。

## 7 農作業安全

収穫時期は日没が早まるので、夕方に農作業事故の発生が多くなります。余裕のある作業計画とし、農作業安全に努めます。

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 畑作物

発行日 平成24年 8月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ **大豆** 平年よりやや遅い開花となりました。茎疫病の被害や高温・乾燥による生育抑制の見られるほ場があり、生育量は全般に平年並みから平年をやや下回っています。  
マメシクイガの防除適期は8月下旬から9月上旬です。薬剤が莢によく付くように散布しましょう。
- ◆ **小麦** いよいよ25年産小麦栽培が始まります。播種適期を逃さないよう作業計画を立て、排水対策を必ず実施しましょう。  
播種は土壌条件が整ってから行い、出芽・初期生育を確保しましょう。

## 大豆

### 1 病害虫の防除

マメシクイガの防除適期は、県中北部で8月第6半旬、県南平坦部で9月第1半旬です。ただし、ピレスロイド系薬剤を使用する場合は、上記より1半旬早め(県中北部で8月第5半旬、県南平坦部で8月第6半旬)に散布すると、より高い防除効果が得られます。

紫斑病の防除適期は、若莢期(開花後20日頃)～子実肥大期(開花後40日頃)となります。

いずれも薬剤が莢によく付くように散布(生育が旺盛な場合は登録の範囲内で散布水量を増やす)しましょう。

### 2 手取り除草の実施

雑草は収穫時に汚損粒の原因となります。また、次作の発生源になりますので、種子をつける前に除草を行いましょう。

### 3 台風対策

台風の影響を受けやすい時期になります。土壌表面の排水を促進するため周囲溝や排水口などを点検・補修し、土壌表面水を速やかに排水できるようにしておきましょう。

## 小麦

### 1 排水対策

水稲の刈り取り作業と小麦の播種作業が競合することにより播種適期を逃してしまうことが心配されます。排水対策を早めの実施し、ほ場を乾かしておきましょう。

水稲の刈り取り後、小麦を作付けするほ場については地表水の速やかな排水を促すため、できるだけ早く額縁明渠を設置しましょう。→必ず排水路につなげて下さい(水尻は大きく掘り下げ、フリードレン下部から排水するようにしてください)。

ほ場内明渠は、播種後に実施することも可能です。十分な準備ができない場合、播種後の施工も想定しておきましょう。

## 2 プラウ耕

水田ではロータリ耕が一般的ですが、小麦栽培では深耕のためにプラウ耕が必要になることもあります。ただし、深耕が難しい場合もありますので、あらかじめ作土や耕盤の深さなどを調査し、不良な重粘土ややせた下層土が作土に混入することを避けるなど、十分に検討してください。

表1 プラウ耕とロータリ耕の利点と欠点

	プラウ耕	ロータリ耕
利点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深耕、砕土による透排水の改善</li> <li>・有効土層確保（15cm以上）</li> <li>・わら等のすき込みが容易</li> <li>・雑草の種子や塊茎の低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砕土、整地を兼ねた省力作業</li> <li>・小型トラクタで対応可能</li> </ul>
欠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20ps程度のトラクタでは対応が難</li> <li>・耕起後の整地作業が必要</li> <li>・一気に深耕すると肥培管理が難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕深が10～12cm程度と浅い</li> <li>・耕盤ができ、排水不良、土壤構造が緻密化</li> <li>・湿田では土を練ってしまう</li> <li>・有機物のすき込みがしにくい</li> </ul>

## 3 砕土・整地

深耕を行った場合は、大きな土塊を砕くため、砕土・整地作業を十分に行う必要があります。土塊が多いと播種精度が落ち、発芽が劣るなどの問題が生ずるので、水稲から転換後1～2年は砕土・整地をできるだけ丁寧に行いましょう。

特に砕土の良否は発芽に大きな影響を及ぼすため、一般的に地表部10cm層の砕土率（粒径2cm以下の土塊の割合）を70%以上にする必要があるとされています。砕土作業は、ハロー耕（ツースハロー、ドライブハロー、バーチカルハロー）やロータリ耕が効率よく行えますが、作業時の土壤水分によっては砕土性が劣る場合があります。砕土作業はプラウ耕の方向に対して直角か45°の角度で行い、砕土後はほ場を均平にするため整地します。ロータリ耕のあとは土壤が水分を含みやすく、降雨があると乾きにくくなるため、播種直前に行うようにしましょう。

また、アップカットロータリを用いると、表層の砕土率が高く、下層は粗い二層構造の土壤を形成し、有機物の埋め込み性にも優れ、その後の播種作業も楽に行うことができます。

表2 水田転換畑（初年度）と普通畑における砕土率と発芽率（昭和42年；東北農試）

水田転換畑		普通畑		備 考
砕土率 （%）	発芽率 （%）	砕土率 （%）	発芽率 （%）	
64	77	77	83	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壤型：多湿黒ボク土</li> <li>・耕起、砕土：プラウ耕、ロータリ耕</li> <li>・品目：とうもろこし</li> <li>・播種法：コーンplanター播種</li> </ul>
61	72	74	84	
57	70	71	86	
49	67	66	84	
45	68	57	78	

## 4 適期播種と播種量、播種方法

播種期が遅くなると、年内に確保できる茎数が少なく、穂数不足による減収や、根張りが少ないため凍上害にあうことが多くなります。特に、県北部では播種晩限をすぎるほど減収程度が大きくなるので、適期播種に努めましょう。

品種別の播種量と目標株立数を参考に、播種が遅れた場合には播種晩限から1週間遅れるごとに播種量を1割ずつ増やしましょう。また、やむをえず萎縮病類が発生したほ場に今年もナンブコムギを作付ける場合には、播種量は標準の3割増とし、100～120株/m<sup>2</sup>の株立数を目指しましょう。

ドリルシーダーを用いてドリル播き（密条播）する場合は、播種量の調整を行い、施肥機がセッ

トされている機械では播種同時施肥を行います。また、播種深度は 3～5cm 程度を目標とします。播種深度が深すぎると、出芽のバラツキや出芽率が低下します。逆に播種深度が浅すぎると、凍上害や鳥害、除草剤の薬害などが生じやすくなるので注意しましょう。

ブロードキャストで種子を散播する場合は均一散播に心がけ、覆土はパディハローやロータリなどを用いて浅く（5cm 深程度）攪拌、覆土を行います。

**表 3 県内の地帯別播種適期**

地 帯	播種期（月．日）		適期日数 （日間）
	早限	晩限	
高標高地	9.15	9.25	11
県北部	9.15	9.30	16
県中部及び沿岸北部	9.20	10.5	16
県南部	9.25	10.20	26

**表 4 品種別の播種量と目標株立数**

品 種 名	播種量 (kg/10a)		目標株立数 (株/㎡)	千粒重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンブコムギ	6 程度	8 程度	75～120	41
ネバリゴシ	6～8	8～10	130～170	37
ゆきちから	6～8	8～10	120～160	39
コユキコムギ	6～8	8～10	120～160	42
ファイバースノウ (大麦)	6～8	8～10	130～170	38

注) 播種粒数に対して株立率を 80%（全面全層播は 64%）として求めた。

### ●萎縮病対策

岩手県内全域で萎縮病類に汚染されているほ場が目立ちます。抵抗性の高い品種（ゆきちから等）の導入が有効です。ナンブコムギを作付けする場合は、発病ほ場では安定した収量確保が難しいので、ほ場の変更を検討しましょう

萎縮病類は土壌伝染するので、農業機械、農機具および作業者の靴の土壌をよく洗い、汚染土壌を他のほ場に持ち込まないようにしましょう。また、やむをえず作付けする場合、「播種晩限」より遅れない範囲で播種期を遅らせることで、早期感染を防ぎ被害の軽減につながります。

萎縮病対策には冬期播種も有効ですが、排水条件が良く雪解けの早い地域でないと生育量が確保できないことがあります。実施にあたっては十分注意してください。

## 5 除草剤処理

除草剤をよく効かせるためには、

- ・ 散布のタイミングを逃さないこと。
- ・ 砕土・整地を丁寧に行うこと。
- ・ 土質によって薬量が変わる場合があるので、ラベルをよく読むこと。

が重要です。

過湿条件では薬害が発生する危険があるので散布を避けましょう。また、輪作や周囲の草刈りなど耕種的な防除を併せて実施し、総合的な雑草防除を行いましょう。

次号は 9 月 27 日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 野菜

発行日 平成24年 8月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 施設果菜類 草勢維持と障害果の発生防止
- ◆ 露地きゅうり 摘葉と病害防除の徹底、台風への備えも万全に
- ◆ 雨よけほうれんそう 適切な品種への切り替え、秋雨・台風への備えを万全に
- ◆ 露地葉茎根菜類 収穫率向上のための適切な管理と病害虫防除

## 1 生育概況

- (1) トマトの雨よけ栽培は高温による花落ちや草勢の低下がみられるほか、収穫果実は小玉傾向となっています。
- (2) ピーマンは収穫ピークを迎え、成り疲れによる草勢の低下や高温・乾燥による日焼け果、尻腐れ果等の障害果の発生がみられます。病害虫ではタバコガの発生がみられるほか、斑点病も散見されます。
- (3) きゅうりの露地栽培では収穫ピークを過ぎたところですが、成り疲れや乾燥により草勢が低下しているほ場がみられます。また、病害では褐斑病やべと病、うどんこ病が見られますが例年よりは少発生であり、害虫ではアブラムシ、ハダニ、カメムシ等の発生がみられます。施設抑制栽培では生育は概ね順調で、出荷が始まっています。
- (4) 雨よけほうれんそうは高温による生育停滞やしおれ、枯死がみられますが、土壌消毒を行っている圃場では概ね順調に生育しています。アブラムシが広く発生しているほか、シロオビノメイガ、ヨトウムシの被害も確認されています。
- (5) キャベツは、株腐病やべと病の発生が見られますが、概ね順調な生育で、品質も良好です。レタスでは干ばつによりチップバーンの発生が見られる他、切り口の変色など品質の低下が見られます。
- (6) ねぎは夏どり作型で収穫中ですが、高温乾燥の影響で生育が停滞したり、茎が細めの傾向です。黒斑病、軟腐病、ネギアザミウマ、ネギコガ、ネギハモグリバエの発生が見られます。

## 2 技術対策

### (1) 果菜類 (トマト・ピーマン)

#### ア 施設果菜類

しばらくは残暑が厳しい予報ですので、気温が高いうちは高温対策と十分なかん水管理を継続して下さい。また、今後秋雨前線が活発になるとハウス内の湿度が上がりますので、十分な換気を行うことと、病害虫の防除にはくん煙剤を使用する等、湿度を上げない工夫が必要です。

気温が低下してきたら、施設果菜類では夜間の保温を行います。最低気温がピーマンでは17℃、トマトでは裂果軽減を考慮し14℃の時期をめどに保温を開始します。

#### イ 雨よけトマト

裂果の発生を抑えるため、土壌水分の急激な変化を起こさないよう少量多回数のかん水管理とします。ハウス外からの雨水の横浸透にも留意し、ハウス周囲の明きよの点検整備をしましょう。また、早期白熟を防ぐため果実に直射日光が当たらないようにするとともに、最低気温が14℃を

下回るようになったら保温を行って下さい。

最終摘心時期は収穫打ち切りの日から逆算して決めますが、10月末まで収穫する場合は、9月上旬頃が目安となります。開花花房の上の葉を2枚残して摘心すると、放任するよりも果実の肥大が良くなります。

病害では今後、灰色かび病や葉かび病、疫病の発生が懸念されるので、これら病害に効果のある薬剤を選択し、防除に努めてください。高温期の萎れが多く発生したほ場では、次年度対策のためにきちんと診断を受けておきましょう。

## ウ ピーマン

施設・露地とも尻腐果等高温による障害果の発生はまだみられていますが、気温の低下とともに黒変果の発生も増えてきます。ハウス栽培では保温、換気を気象条件に応じて行い、適切な温度管理に努めてください。

病害虫では、降雨後に軟腐病の発生が多くなる時期となります。軟腐病の予防には降雨前後の薬剤散布が効果的です。特に、タバコガの食害痕など傷の付いた部分から病原菌が感染しますので、地域の予察情報等を参考にタバコガの防除もあわせて実施して下さい。

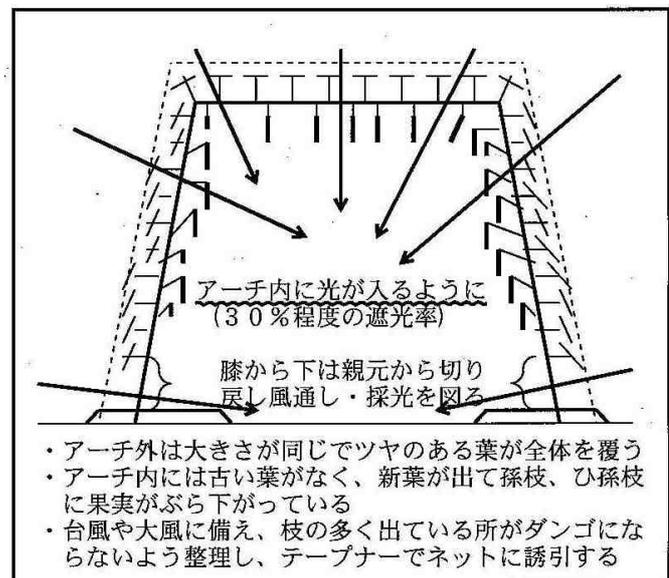
### (2) 露地きゅうり

草勢低下が著しいほ場では、不良果の摘果に努めて草勢回復を図るとともに、摘心はアーチの外側に飛び出しているところを指先で止める程度にとどめます。

摘葉は、生育後半でも太陽光がアーチ内部に十分入り込み、新葉が常に発生するように右図を参考に行います。

さらに、草勢回復には液肥を薄い倍率で葉面散布することも有効です。気温も徐々に低下してきますので、追肥は速効性の資材を利用するようにします。

病害では褐斑病、炭そ病、べと病に効果のある薬剤を中心に選択し、古葉や病葉の摘葉作業と併せながら効果的な防除に努めます。特に、アーチの上部で病害がまん延しないよう丁寧な薬剤散布に努めてください。



### (3) 雨よけほうれんそう

秋まき作型に向けた品種切り替えの時期です。品種によっては、高温で徒長したり、気温の低下により生育が大幅に遅れる場合がありますので、各地域で示されている作付品種体系に従い、適期に適切な品種を播種しましょう。

萎ちょう病等の土壌病害が多くみられたほ場では、次年度の対策として土壌消毒を実施しましょう。初夏に土壌消毒する従来の方法以外に、作付終了後の晩秋に土壌消毒を行う方法もあります。具体的な方法については、最寄りの農業改良普及センター等にご相談下さい。

気温の低下や秋雨の影響でハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生がみられることもあります。抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して病害が発生しにくい環境にしましょう。

台風の影響を受けやすい時期になります。屋根ビニールが破損したり、ハウス内に雨水が流入するのを防止するためビニールの破れの補修、ハウス周りの排水対策を再度確認します。

### (4) 露地葉菜類

#### ア ねぎ

最終土寄せをした後の日数が長くなると葉鞘部のしまりが悪くなる等して品質が低下し

ます。収穫の20～30日前を目安に最終培土を行いましょう。

収穫が近くなってからの病害虫被害は品質の低下に直結しますので、早めの防除を心がけましょう。なお、農薬の使用にあたっては収穫前日数を確認して適切に防除しましょう。

#### イ キャベツ・レタス

高冷地の定植作業は終了しています。今後は収穫率が向上するように生育中の栽培管理をしっかり行い、適期収穫により収穫率の向上を目指しましょう。

大雨や長雨の時期になるので、ほ場排水を確認し、降雨後の防除が円滑に行えるようにしましょう。また、収穫終了後の廃棄株や残渣は放置せず、病害虫の発生源とならないように注意しましょう。

#### ウ アスパラガス

普通栽培および立茎栽培のアスパラガスは、地上の茎葉部に存在している養分が地下部へ徐々に移行する時期となります。これからの追肥は養分転流の妨げになりますので行いません。株養成には茎葉部を健全に保つことが重要ですので倒伏防止対策をしている場合には、台風などに備えてもう一度ネットや誘引線の確認を行いましょう。

伏せ込み促成アスパラガスの株養成においても、茎葉部を健全に保つことが収量向上につながります。病害を防除し、倒伏させずに自然に茎葉が黄化するよう心がけましょう。



フラワーネットを利用して倒伏防止しているほ場の例

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 花き

発行日 平成24年 8月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/>」

- ◆ 共通 高温対策、病虫害防除を徹底し、良品の出荷に努めましょう。
- ◆ りんどう 収穫後、翌年に向けた管理を徹底しましょう。
- ◆ 小ぎく 健全な親株を確保・養成しましょう。
- ◆ 施設花き 施設の風通しなどの環境管理に注意しましょう。

## りんどう

### 1 生育概況

盆需要期の出荷は、山間地、県北部で出遅れがみられましたが、県全体としては概ね良好に出荷されました。現在、中生種の出荷が始まっています。

病虫害では高温乾燥の影響によりハダニ類、アザミウマ類の発生が増加しています。また、リンドウホソハマキの発生も続いているほか、一部の地域ではオオタバコガの被害もみられています。

今後の重要病害となる花腐菌核病は、例年より遅れた発生となる見込みです。

### 2 高温対策

#### (1) かん水

乾燥のため草丈がやや短い茎が目立っているほか、蕾の肥大や頂花の開花遅れもみられています。生育の促進と開花遅れを避けるためかん水を励行します。

うね間かん水を行う場合は、高温となる日中を避け、夜間にかん水して早朝には排水することを徹底してください。

#### (2) 薬剤散布

高温時の薬剤散布を避けることは基本的な事項です。

高温時は薬害の発生が多くなるほか、作業者への影響も大きくなることから、薬剤散布は日中の高温となる時間帯を避け、早朝または夕方に散布することを徹底します。

#### (3) 収穫・調製

気温が高い時期は、収穫後の開花が進みやすいので切り前を考慮します。

また、花卉の痛みや茎葉のしおれを防ぐため収穫後は直射日光下におかず、できるだけ早く涼しい場所に移動し、水揚げするなど適切に管理します。

### 3 病虫害防除の徹底

#### (1) ハダニ類

降雨が少なく乾燥した状態が続いたため、ハダニ類の発生が増加しています。気温の低下に伴い発生は減少しますが、9月中旬頃には越冬成虫が現れはじめ防除効果が低下する(農薬が効きにくくなる)ため、9月上旬までにハダニの密度を下げるように防除を徹底します。葉裏へ十分薬剤が付着するように薬剤散布を行います。

#### (2) アザミウマ類

収穫後の残花で増え、多発している圃場がみられます。蕾が着色する頃から寄生して花の内部で増殖するので、その時期から防除を徹底し、収穫後の残花の着いた茎部分を折り取ります。圃場周辺の作物や雑草の防除も併せて実施します。

### (3) リンドウホソハマキ

一昨年や昨年に比べ発生は少ない傾向ですが、現在も発生が続いています。被害がみられている圃場では防除を継続します。また、定植年株への被害もみられます。採花年株とあわせて防除します。

### (4) オオタバコガ

花蕾を食害します。圃場をよく観察し、発生がみられる場合は効果のある薬剤を選択し防除してください。

### (5) 葉枯病

本年の発生は少なめですが、一部上位葉での発生がみられ始めています。秋季にも拡大する場合がありますので、今後収穫する品種と併せ、収穫終了した品種も防除を継続します。

### (6) 褐斑病

本年の発生は少ない状況ですが、降雨が多く、葉の濡れが数日続くことで感染します。有効な薬剤を株内部に散布するほか、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分し、拡大防止に努めてください。

### (7) 花腐菌核病

菌核にできた子実体(きのこ)から孢子が飛散し、花卉に付着して感染しますが気温の低下に伴い、冷涼地から孢子の飛散が始まります。

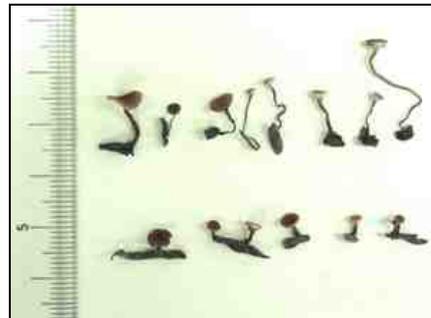
各地域での防除情報を参考に適用薬剤での防除を開始してください。



花腐菌核病被害花



株元に形成された子実体



菌核上に形成された子実体

## 3 収穫後の管理

(1) 早生・中生種では、生育の状況により収穫後に窒素成分で3~5kg(10aあたり)を追肥し、株養成に努めます。

(2) 収穫後の圃場では防除が手薄になり病害虫が多発する場合があります。翌年の発生源となるので、収穫後も防除を継続してください。収穫後の薬剤は葉の汚れへの配慮は不要なのでコスト低減も考慮して選定してください。

(3) 害虫や花腐菌核病の防除のため、残花のある茎部分を折り取ってください。この作業は株養成のためにも効果的です。また、定植年の株でも開花しますので、できるだけ花を摘み取ります。

## 小ぎく

### 1 生育概況

盆需要期の出荷は、若干開花が早まりましたが概ね順調に出荷されました。

病害虫では、ハダニ類、アザミウマ類の発生が増えているほか、アブラムシの発生も続いています。オオタバコガのフェロモントラップでの捕殺数が増加傾向にあります。各地域の防除情報を参考に防除を徹底してください。

### 2 かん水

降雨が少なく乾燥している圃場が多くなっています。過度の乾燥は、品質低下や蕾の発達が遅れる原因となりますので適宜かん水を実施します。ただし、長時間水を溜めることや高温時のかん水は避

けてください。

一方、キクの根は過湿に弱く、多湿条件下では生育障害が発生します。大雨などで長時間圃場に滞水しないよう排水対策を行ってください。

### 3 病虫害防除

#### (1) オオタバコガ

一昨年や昨年と比べ発生は少ない傾向ですが、生長部を食される被害がみられています。9月以降の防除も重要となりますので、これまでどおり各地域の防除ごよみや防除情報を参考に防除を徹底してください。

(2) 上記の害虫の他、白さび病やアブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の防除を継続します。親株となるものに白さび病が感染していると翌年も発生する可能性が高くなりますので防除の徹底を図るとともに親株の選抜に留意してください。

### 4 母株選抜・養成

翌年採穂用の母株は、収穫前の選抜を徹底します。特に、えそ病やわい化病の感染株は見つけしだい株ごと抜き取り、圃場に残さないようにしてください。また、下葉からの枯れ上がりがみられる株は、土壌病害が原因となっているものもあります。翌年の苗にすることで感染が広がることも考えられるので、枯れ上がりのみられた株の母株への使用は避けます。

残した株は病虫害防除を継続し、茎葉が伸びた場合は適宜台刈りを行います。またマルチ栽培の場合には収穫後すぐにマルチをはがし追肥と土寄せを行います。

## 施設花き

### 1 高温対策

施設の開口部を開放して十分に換気できるようにしてください。その際、循環扇等を利用すると効果的です。また、必要に応じて遮光資材を展張し、気温や地温の低下を図ります。ただし、ストック、パンジー等育苗中のものについては徒長を避けるため過度の遮光としないよう注意します。

### 2 ストック

#### (1) かん水

活着後は2~3日おきにたっぷりかん水します。最初に根を深く張らせることで後半にかん水を控えても萎れないようになり、品質確保につながります。過剰なかん水は立ち枯れ性病害の発生を助長するので、適量かん水を心がけます。

#### (2) 遮光・温度管理

活着後は速やかに遮光資材を除去し、十分な日照を確保します。ハウスは開放し、気温が上がらないような管理とし、高温による生理障害や品質低下の発生を防ぎます。

#### (3) コナガ防除

殺虫剤による防除をしますが、抵抗性獲得を避けるため異なる系統の薬剤をローテーションで使用します。ハウスの開口部を防虫ネット(目合いが1mm以下のもの)でふさぐことも効果的ですが、通気性が悪くなり品質低下の原因となる場合があるので、注意します。

### 3 トルコギキョウ

(1) 高温により一斉に開花が進みましたが、今後も高温、強日照が続く場合には、適宜、遮光して生育を抑えます。また、葉焼け等品質の低下に留意します。

(2) 今後も継続して、オオタバコガ、アザミウマ類、ヨトウムシ類、灰色カビ病の防除に努めます。

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報

# 第6号

# 果樹

発行日 平成24年 8月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんご 肥大は平年並みまで回復！早生種の適期収穫・すぐりもぎの徹底を！！
- ◆ ぶどう 品種特性が発揮される適期収穫を！！

## りんご

### 1 生育状況

#### (1) 果実肥大

定点観測地点(表1)の果実肥大(横径)を県平均で見ると、いずれの品種も概ね平年並みとなっています。本年は花芽量が多く、結実率が高かったため、着果量が多く、また、降水量が少ないため、果実肥大調査が始まった6月は平年の80%程度でしたが、乾燥状態が続く中、摘果が進んだことにより、平年並みまで回復しました。しかしながら、地域や園地によりばらつきが見られます。中晩生種は見直し摘果を実施しましょう。

#### (2) 果実品質

定点観測地点の「つがる」の果実品質を県平均で見ると、硬度、デンプン指数は平年よりやや高め(図1、3)、糖度(図2)はほぼ平年並みとなっています。

昨年は開花の遅れと猛暑の影響により、着色が遅れ、収穫が遅くなった地域も見られました。長期予報によると本年も収穫期の気温が高くなる見込みであり、果肉先行で熟期が進む可能性があります。適期の着色管理並びに適期収穫を進めましょう。

表1 りんごの果実肥大状況

(単位:mm)

8月21日時点 の生育状況	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
	本年 (H24)	前年 (H23)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)	本年 (H24)	前年 (H23)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)	本年 (H24)	前年 (H23)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)
岩手町	80.0	80.1	80.4	100	100	78.8	79.2	79.1	99	100	73.3	75.9	71.7	97	102
盛岡市	75.0	79.3	80.4	95	93	77.3	76.6	78.6	101	98	75.3	70.4	72.7	107	104
紫波町	78.8	79.2	84.4	99	93	73.3	72.8	80.2	101	91	79.3	75.0	74.5	106	106
花巻市	89.4	83.1	81.0	108	110	78.0	78.2	80.3	100	97	75.4	71.1	71.5	106	105
農研センター	85.1	77.0	82.6	111	103	76.7	71.5	80.0	107	96	74.7	71.2	73.6	105	101
北上市	90.0	84.9	85.1	106	106	84.2	76.3	82.5	110	102	79.3	76.5	76.9	104	103
奥州市前沢区	80.9	77.1	83.3	105	97	79.1	71.3	78.8	111	100	74.1	75.1	75.1	99	99
奥州市江刺区	80.0	81.0	80.1	99	100	77.3	73.0	79.6	106	97	67.4	67.1	71.0	100	95
一関市花泉町	89.4	85.2	82.2	105	109	80.8	76.9	78.7	105	103	70.7	72.7	71.1	97	99
一関市大東町	81.5	79.5	82.1	103	99	80.0	77.1	77.1	104	104	70.7	74.0	73.3	96	96
陸前高田市	81.9	85.7	82.7	96	99	76.2	76.0	77.4	100	98	68.8	72.7	71.9	95	96
宮古市	81.1	81.0	80.2	100	101	83.0	78.7	80.2	105	103	73.4	76.7	74.0	96	99
岩泉町	72.1	74.0	81.2	97	89	80.1	80.1	75.4	100	106	71.0	69.4	72.5	102	98
洋野町大野	84.4	83.3	77.9	101	108	77.2	82.8	77.2	93	100	76.3	72.8	69.7	105	109
軽米町	-	75.9	80.4	-	-	80.3	76.3	78.5	105	102	70.0	70.3	68.9	100	102
二戸市	84.2	78.2	81.0	108	104	75.5	70.6	79.8	107	95	73.6	72.7	73.3	101	100
県平均(参考)	82.1	80.5	81.5	102	101	78.7	76.4	78.9	103	100	73.2	72.8	72.5	101	101

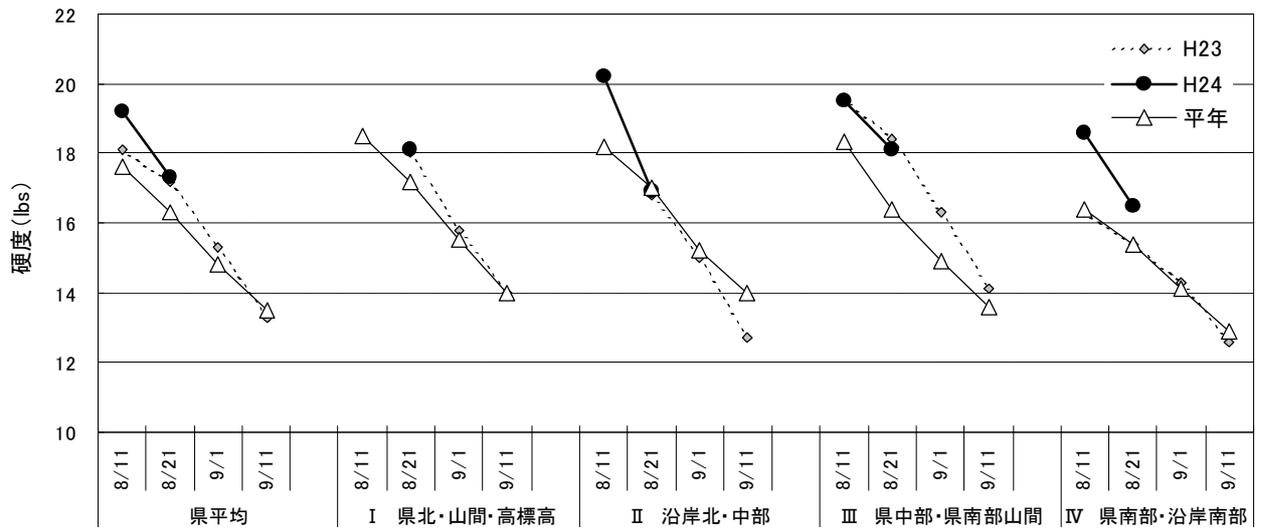


図1 つがるの硬度の経時変化

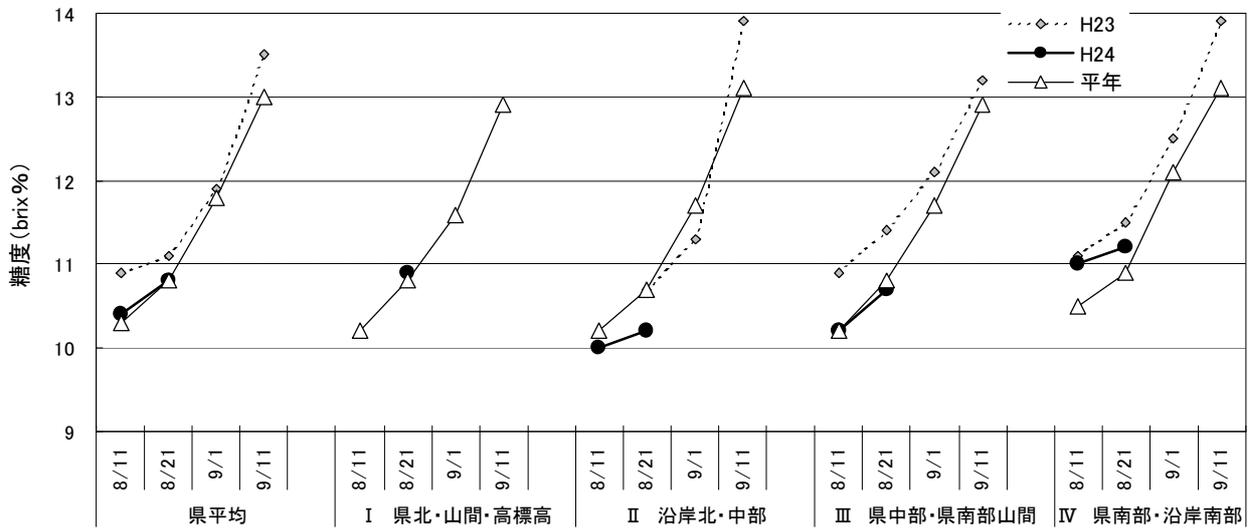


図2 つがるの糖度の経時変化

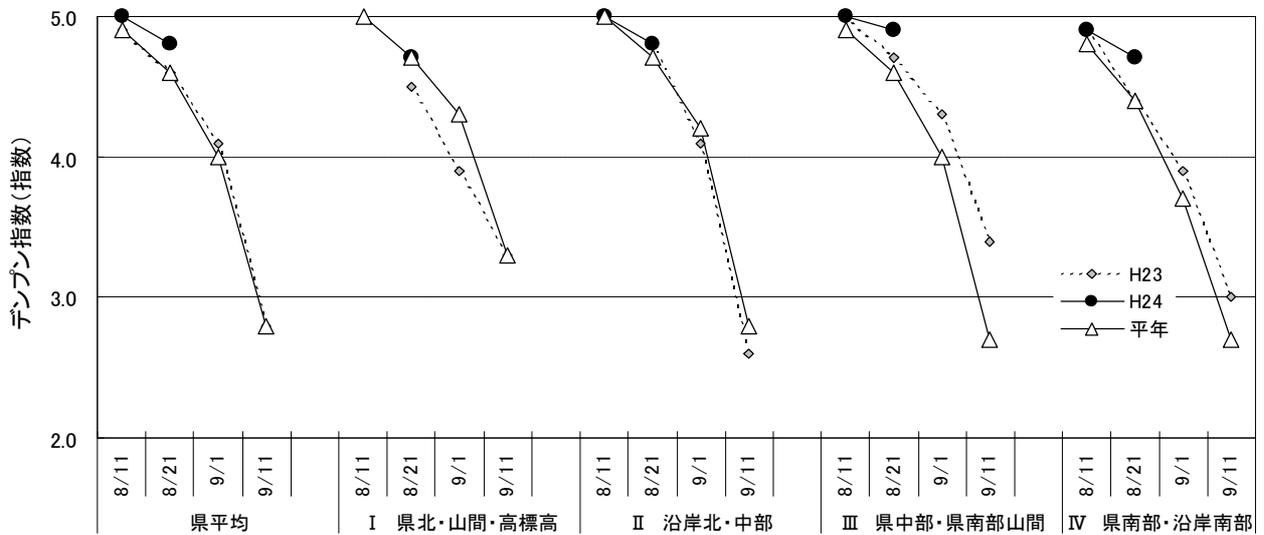


図3 つがるのデンプン指数の経時変化

## 2 管理作業

### (1) 早生種の着色管理

- ア 「さんさ」、「つがる」について作業を実施します。
- イ 1 回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで 2~3 回行います。玉まわしと同時に適当な強さに葉を摘みます。しかし、果皮に急に直射日光が当たると日焼けが発生しますので、徐々に葉摘みを進めましょう。
- ウ りんごの着色適温は 10~20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。

### (2) 収穫 (表 2 参照)

- ア すぐりもぎが基本です。特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」は徹底しましょう。
- イ 「きおう」は、ツル浮き (内部裂果) が発生しやすく、これは正常果よりも早く熟しますので、特に収穫前半はツル浮き果が混入しないよう注意してください。降雨の多い年は、ツル浮きの発生が多い傾向にありますので、特に注意が必要です。
- ウ 「つがる」は、収穫後の果肉の軟化が早く、また、収穫が遅れると果面に油上りが発生しやすいので、地色に注意して遅取りを避け、収穫後はできるだけ早めに予冷しましょう。
- エ 落果防止剤にストッポール液剤を散布した場合は、散布日から 7 日以上開けて収穫します。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数	カラーチャート 指数*
さんさ	115日	13.5~14	13~14	2~3	2~3
つがる	115~125日	13~14	12~14	3~3.5	2~3
きおう	115~125日	13~14	13以上	2~3	2.5~3.5

※:さんさ、つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

### (3) 「黄香」の管理について

#### ア 満開起算日数からみた収穫期の目安について

「黄香」の収穫適期は、早生品種の熟度がほぼ平年並みですすんでいることから、平年並みの満開起算日数満開 130~135 日後が目安と考えられます。JM7 台木利用樹や若木は収穫期が早まる傾向があり、今後の気象や果実品質の変化によって、変動することもありますので、注意してください。

表3 「黄香」の収穫適期判定基準

「黄香」表面色 カラーチャート 指数	満開日 起算日数	硬度	糖度	酸度	デンプン 指数
指数4~4.5	130~135日	16lbs程度	13%以上	0.3%以上	2以下

#### イ 「黄香」表面色カラーチャートを利用した収穫期の判断

「黄香」は、表面色カラーチャートを利用した収穫適期判断が可能で、収穫適期の目安は、指数 4~4.5となります。表面色カラーチャートが、必要な方、詳しい使い方等については、各普及センター、農協にお問い合わせください。

#### ウ 収穫時の留意事項

「黄香」の最終的な収穫期の判断は、果皮色、糖度、硬度等を加味し総合的に判断します。収穫が早すぎると食味が劣り、収穫が遅れると裂果を助長する要因となりますので注意して下さい。なお、「黄香」の果実は比較的熟期が揃う傾向がありますので、ほぼ一斉収穫が可能と思われますが、すぐりもぎをする場合は、熟期の遅れているものを残す感覚で行ってください。

#### エ 落果防止剤の散布

「黄香」は収穫前落果が見られることから、落果防止剤を散布する必要があります。これまでの研究成果で、「落果防止剤 (商品名:ストッポール液剤) の 1,000 倍の早期散布は、熟期を早める傾向が伺われ裂果を助長する」とされています。したがって、本年の落果防止剤の散布は裂果軽減を図るため、ストッポール液剤を希釈倍数 1,500 倍、散布時期は収穫 10 日前で使用します。なお、落果防止効果は 1,500 倍でも十分にあることが認められています。

#### (4) 「紅いわて」の収穫について

##### ア 満開日起算からみた収穫期の目安について

農業研究センターでのこれまでのデータから（表4）、満開日起算日数は135～145日程度で果実品質が一定の基準に達するものと考えられます。研究センターでの今年の満開日は5月8日であったことから満開日起算日数140日となるのは、9月25日となります。実際の収穫判断は、糖度、でんぷん反応指数で判断しますが、開花の遅かった昨年よりはやや早めの収穫になると考えられます。

##### イ 収穫期の留意事項

「紅いわて」は着色の良い品種であり、9月になると着色が始まります。しかし、着色のみで収穫を判断し、収穫が早すぎると食味が劣り、品種の評価を落とすこととなりますので、満開日起算日数を目安に食味を確認し総合的に判断してください。「紅いわて」の収穫適期については、現在も農業研究センターで試験中です。最新情報に留意し、適期収穫に努めてください。

表4 「紅いわて」の年次別果実品質 (岩手農研)

年次	満開日 (月日)	収穫日 (月日)	満開日 起算日数	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)
2011	5月16日	9月30日	137	282	12.6	14.4	0.32
2010	5月14日	10月1日	140	283	14.0	13.8	0.28
2009	5月6日	9月18日	135	292	13.0	13.4	0.34
2008	5月2日	9月22日	143	248	16.8	13.3	0.36
2007	5月11日	9月28日	140	261	16.3	15.1	0.36
2006	5月15日	9月28日	136	242	15.0	14.8	0.32
2005	5月14日	10月4日	143	275	13.5	14.0	0.34
2004	5月6日	9月17日	134	280	13.5	14.0	0.40
2003	5月7日	9月28日	144	243	16.6	15.1	0.34
平均	5月10日	9月26日	139	267	14.6	14.2	0.34

### 3 病害虫防除および気象災害対策

#### (1) 病害虫防除

今後の気象条件によって、斑点落葉病や褐斑病、ハダニ類等が発生することがあります。予察情報等を参考にして、必要な防除を実施しましょう。農薬を使用するに当たっては、使用基準（倍率、収穫前日数等）に十分注意してください。

#### (2) 台風対策

これから、台風が多く発生する時期になります。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

#### (3) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

#### (4) 日焼け果

今後も気温が高く推移する見込みのため、日焼け果の発生が懸念されます。前号で原因と対策について記載していますので参照ください。

## ぶどう

### 1 生育状況

8月15日時点の定点調査地点における「キャンベル」の果実品質は、糖度の上昇が平年より高くなっています（表5）。また、着色は概ね平年並みの状況です。一方、「紅伊豆」の着色は遅れています。収穫時期は、糖度や酸抜けなどの果実品質を十分に確認してから行いましょう。

## 2 管理の要点

### (1) 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、表6の品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熟になると商品価値が落ちるので、適期収穫に努めましょう。

早生品種や栽培法によっては、すでに収穫期に入っているものもあると思われますが、収穫に当たっては、農薬安全使用基準の収穫前日数には十分に注意してください。

収穫は、果実温度が低い早朝から午前中に行います。降雨後は、糖度も下がり、輸送中の腐敗も多くなるので避けるようにしましょう。

選果・調整は、果粉を落とさないように穂柄を持ち、未熟果、腐敗果、裂果等を除き、出荷形態に即して房形を整え出荷しましょう。

### (2) 裂果対策

収穫直前の急激な土壌水分変化は、裂果の発生を助長します。土壌が乾燥し過ぎないように、こまめな雑草の刈り取り、樹冠下に敷きワラ等でマルチするなどの対策を実施します。また、降雨があった場合には、過剰な水分を早期に排水できるよう、根域の周辺にビニール等を敷く、溝掘り（明渠）するなどの対策を実施しましょう。

「紅伊豆」などの雨よけハウス栽培では、温度が高くなりやすいハウス中央部などで果実の着色不良や果肉の軟化、裂果や脱粒を引き起こすことがあります。気温が高くなると予想される日は、サイドのビニールを巻き上げる、換気扇を利用する等温度が上がりすぎないように努めます。

表5 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(定点調査地点:紫波町赤沢)

	8月15日現在				
	新梢長(cm)	節数(葉数)	房長(cm)	果径(mm)	糖度(%)
本年(H24)	115.7	15.2	15.3	19.8	9.5
前年(H23)	130.9	17.1	12.4	18.0	10.7
平年	136.3	17.6	15.5	18.8	8.2
平年比	85%	86%	99%	105%	116%
前年比	88%	89%	123%	110%	89%

表6 品種別収穫時期の目安

品種	基準糖度	房の状態	備考
キャンベル	14%以上	房全体が黒紫色	
デラウエア	18%以上	着色完了2~3日後	酸抜けが遅い、食味重視
紅伊豆	18%以上	房全体が鮮紅色	過熟果は軟化や脱粒が多い
ハニーブラック	20%	房全体が紫黒色	脱粒少ない
サニールージュ	18%	房全体が紫赤色	脱粒少ない

次号は9月27日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 畜産

発行日 平成24年8月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 牧草地の除染作業について、放射性セシウムの牧草への吸収を抑制するため、耕起、碎土は丁寧にを行うとともに、牧草の発芽・定着を高めるよう播種適期を考慮しながら進めましょう。
- ◆ 暑熱の緩和対策（遮熱・送風、嗜好性の良い粗飼料による乾物摂取量の確保など）を継続し、牛の体力回復に努めましょう。
- ◆ トウモロコシの収穫が近くなってきました。サイロの清掃、機械の点検や資材を準備しましょう。

## 1 牧草地の除染作業

### (1) 既に耕起作業が終了し、播種前の場合

- ア 現在供給されている公社専用肥料だけでは、窒素やカリウム分の不足が想定される場合があるため、公社専用肥料のほかに、草地化成肥料が追加で供給されます。
- イ 牧草の発芽・定着を高めるよう適期に播種ができるよう作業を進めて下さい。播種適期の目安は、県北や高標高地で8月中旬～8月末、県央で8月中旬～9月中旬、県南で8月中旬～9月末です。
- ウ 除草剤の播種日同日処理を行う場合の手順と留意点は次ぎのとおりです。
- (ア) 播種の約30日前に播種床の形成を完了します。
- (イ) 除草剤の散布は、他作物への飛散防止のため、風の強い日の散布は避け、専用ノズルや飛散防止カバーを使用して下さい。
- (ウ) 除草剤が乾いたのを確認し、その日か翌日には播種、施肥を行います。
- (エ) 種子と土壌を密着させ発芽率を高めるため、ローラ等で十分に鎮圧します。

除草剤の播種日同日処理で使用する除草剤

	10aあたり散布量	
	薬液量	希釈水量
ラウンドアップマックスロード	200～500ml	少量散布 25～50リットル
タッチダウン iQ	200～500ml	25～100リットル

### (2) これから除染作業を行う場合

- ア 牧草の発芽・定着を高めるよう適期に播種できるよう作業を進めて下さい。
- イ 耕起作業は、次の工程の碎土の精度に影響しますので、ルートマットが確実に土壌と混和できるよう十分な深さを確保して下さい。
- ウ 炭カルなどの土改材を施用します。また、前出の(1)のアのとおり追加で草地化成肥料が供給されるので、併せて施肥して下さい。
- エ 碎土は、放射性セシウムを土壌に吸着させ、牧草への移行を抑制するためにも、ルートマットが確実に土壌と混和するように丁寧にを行います。
- オ 碎土以降の作業は、(1)と同じですが、鎮圧のための作業機械が限定される、時期的に標準作業工程の実施が難しい、更新後の雑草繁茂が懸念されるなどの場合は、振興局農政部・農林振興センター、農業改良普及センターにご相談下さい。

## 2 暑熱の緩和対策の継続

暑さが続いています。暑熱の影響は、涼しくなる秋以降2ヶ月から6ヶ月まで及ぶという報告もあります。暑熱の緩和対策を継続し、牛の体力回復に努めましょう。

### (1) 体感温度を下げる

体感温度を低下させるため、遮熱（屋根散水、西日遮光など）、送風（遮蔽物撤去、換気扇向き調整や設置場所変更など）、牛体の毛刈りなどを行います。

### (2) 乾物摂取量と栄養を確保する

ア 新鮮な水を十分量供給します（貯水量の確保、水槽のこまめな掃除）。

イ 嗜好性の良い粗飼料の給与、涼しい時間帯の増給、エサ押しを励行します。

ウ アシドーシス予防のため、配合飼料給与量の多い泌乳牛では、重曹（目安 100～200g/日・頭）を給与します。

エ ミネラル要求量も満たします。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさない、リン酸カルシウムなどを約1割増やします。

### (3) 疾病等を防ぐ、早めに対処する

ア 分娩直前直後で、左けん部がややくぼむ、採食量が低下しつつある、分娩後極端にやせた牛には、グリセリンなどの糖質を補給します。

イ 乳房炎の感染を防ぐため、換気を良くする、牛床の敷料をこまめに足すなど、牛床の乾燥に努めます。体力が低下しやすい分娩直前から泌乳最盛期の牛にビタミンを補給することも有効です。

ウ 暑熱時のルーメンアシドーシスやストール等で佇立時間が増加することなどにより、秋以降に蹄底潰瘍などの蹄病が増加する場合があります。前出の「体感温度を下げる」、「良質粗飼料の給与」、「重曹の給与」に努めるとともに、歩様や寝起きの様子をよく観察し、必要に応じて削蹄と治療を依頼します。

エ 発情を発現させ受胎を高めるため、前出の「体感温度を下げる」、「乾物摂取量と栄養を確保する」を継続します。また発情兆候が極端に弱い、発情周期が一定しないなど異常な場合は、早めに治療を依頼しましょう。

発情の見逃しを防ぐため、繁殖カレンダー等で発情予定の牛を確認してから牛舎作業に入ります。また、横臥時に粘液を確認できることが多いので、就寝前に牛舎を一回りすることも発情発見に有効です。

## 3 トウモロコシの収穫

### (1) 適期収穫

栄養収量が最大となり、サイレージ調製に最適な水分約70%となる「黄熟期」で収穫します。黄熟期は「ミルクライン」で確認します。雌穂の中程を折って、子実の黄色い部分と乳白色の部分の境目がミルクラインです。黄熟期は、このミルクラインが概ね50%に達したころです。

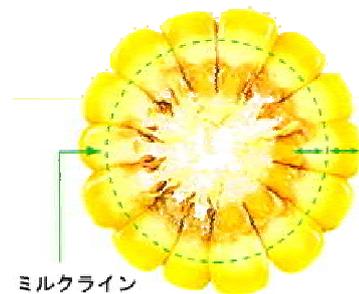
### (2) サイロの大きさ

バンカーやスタックサイロの大きさは、二次発酵予防のための適切な取り出し量も考えて決定します。例えば、スタックサイロで1日600kg（40頭×15kg）給与する場合、サイロ密度を600kg/m<sup>3</sup>とすると、暑い時の取り出し量は45cm以上必要なので、断面積は2.2m<sup>2</sup>以下となります。

$(600\text{kg}/\text{日} \div 600\text{kg}/\text{m}^3 \div 0.45\text{m}/\text{日} = 2.2\text{m}^2)$

#### 気候別サイレージ取り出し量目安

	取り出し量 (cm/日)	
	暑い時	寒い時
バンカー	30以上	20以上
スタック	45以上	30以上



### (3) サイレージ調製

詰めこみ密度を高め、嫌気状態を早く作ることに留意します。

ア ハーベスタの刃は予めよく研磨しておきます。一般的な切断長は約1cmです。破碎処理で収穫する場合は、切断長19mm、ローラ間隙5mm（黄熟期）に設定します。

イ サイロ内の空気を排除し詰めこみ密度を高めるため、十分に踏圧します。バンカーやスタックサイロは、タワーサイロに比べて高さが低いため、原料の自重による加圧は期待できませんので、十分な踏圧が必要です。人が歩いて足跡が残らない程度まで踏み込みます（目安は700kg/m<sup>3</sup>以上）。

ウ 詰め込み作業後速やかにサイロを密封して嫌気状態を作り、乳酸発酵を促します。密封作業は詰めこみ日に終了させるのが原則ですが、2日に渡る時は、1日目の終了時に表面にギ酸などを散布、

仮被覆して品質の劣化を防ぎます。

エ 気密性サイロでは発生するガスによる事故の恐れがあるので、詰め込み翌日以降の作業時は、必ず換気してからサイロに入ってください。

オ 刈り遅れや霜にあたったトウモロコシは、枯葉が多く、水分含量も低下し二次発酵しやすくなるので、プロピオン酸やギ酸など添加剤の使用を検討します。

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。